

『清流長良川の鮎～里川における人と鮎のつながり～』の特徴は？

○ 岐阜県南部を流れる長良川は、流域の人々の暮らしの中で清流が保たれ、その清流で鮎が育ち、清流と鮎は地域の経済や歴史文化と深く結びついています。長良川におけるその循環は、人の生活、水環境、漁業資源が相互に連環している世界に誇るべき里川※のシステムであり、いわば「長良川システム」と呼べるものです。

「長良川システム」は、次の3つの用語が循環システムとして機能していることが大きな特徴です。

1. 暮らしや経済活動の中で、水を守る・水源林を育てる取り組みが行われ都市を流れる河川でありながら、高い水準で、水質、生物多様性が維持されていること
2. 水環境の保全と伝統漁法の継承・資源確保の取り組みにより鮎等の回遊魚を対象とした内水面漁業が盛んで、かつ農林水産業の生産力が維持されていること
3. 清流と地域の農林水産物によって発展してきた歴史文化・産業があること

※里川とは

里川は、手つかずの自然の中で環境が保たれている自然河川ではなく、森林管理や水防施設、清掃管理など人が適正に関与することにより生活領域の中を流れつつ、生活水源・漁場・農業用水等の経済的価値、及びレジャー・景観・歴史・文化等の精神的な価値を有し、かつ、生物多様性を保持している。いわば里山に発し里地を流れる川であり、長良川はまさに「里川」である。